

# ウクライナ避難者支援 のための情報共有会議 — 第15回議事メモ

日時：2023年8月21日（月）18：30～20：30

場所：オンラインzoom

参加者：32名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。



# 「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」これまでの経緯

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY) 代表理事 栗田暢之

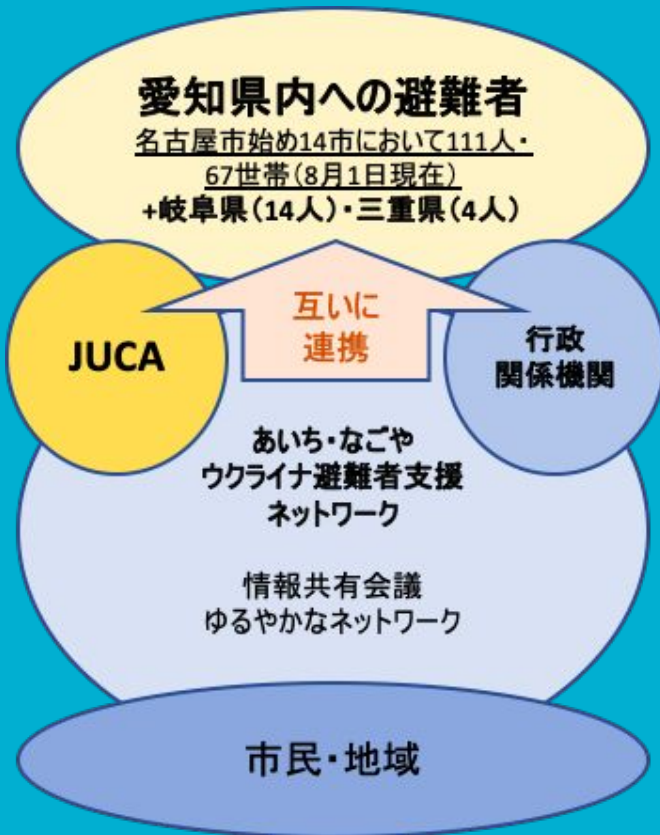
## ●当ネットワーク活動の近況について

・連日の猛暑が続いている。FUKKODESIGNがまとめた「熱中症対策ガイド」をウクライナ語に翻訳してポルシチネットで配信し注意喚起させていただいた。息長くどう支援していくかが課題になっている。本会議の参加者数も減っており、関心の薄れが課題。一方、一人ひとりの暮らしの問題では、「もう大丈夫」ということはない。私達ネットワークとしては、一人ひとりの相談に対して丁寧に向き合っていきたい。

●現在111人、67世帯(8月1日現在)の方が愛知県に避難されている(右図参照)岐阜・三重の人数は変わらないが、近隣なのでできる限りの支援を届けたい。

●本会議は、一人ひとりの暮らし・命を守るためにどういう支援が必要か、そのためにはどうしたらよいかを情報交換することを目的に、月1回程度開催している。緩やかにつながり、ニーズに応じた支援を共通の着地点にしたい。官民連携で、できないことはカバーしあい、横の連携を広げることによって、避難者一人のために力を合わせることが大事。

●11月に「大交流会」を行う。現在避難者50名程度の方から参加者表明を頂いている。日本での避難生活が長期化する中、1泊2日で心と身体をゆっくり休めてもらう時間と空間を提供し、市町村や各種支援団体、士業や臨床心理士、医師などにも参加いただき、総合的な相談体制を整え、以降も相談できる関係性を築くことを目的としている。



# 自治体、支援団体からの報告と質疑

<愛知県 多文化共生推進室 中奥さん>

前回、前々回と同様で、物品の配送も含めて新しくお伝えできる情報はない。名古屋市外から市内への転居が出てきていることがブレイクアウトルームでも話題になった。住所の移動があった時に、寄付物品配送が途切れることがないようにと考えている。市町村との連携、RSYから教えて頂くなどで確認をしていきたい。日本語教室は9月から開始する予定。1回目の日程の確定がまだできていないが、確定次第共有させていただきます。

<名古屋市 国際交流課 西川さん>

名古屋市には先月末時点で61名の避難者が在住している。県内全体のおよそ半分が名古屋市という状況は変わらない。名古屋市の避難民に寄り添う支援はJUCAやRSYに運営を委託しているので、後ほどご報告頂きたい。市民との交流イベント事業を行っており8月27日に「ウクライナデー」を開催する。おかげさまで定員を超える方に応募いただき、抽選という状況になっている。ただ、寄付については当初に比べてものすごく減ってきている。名古屋市の事業はほぼ寄付金で実施しているので、イベントを通じて避難者と触れ合ってもらって、寄付の呼びかけ、忘れないということを行っていきたい。新しい課題として、働く中での在留資格、就労条件のことなど、避難者特有の課題と言うより、他の外国人支援、多文化共生活動の中で課題とされてきたことと同じようなことが出てきている。今までは緊急避難的な状況として皆さんの力を借りてきたが、これからは、多文化共生分野で活動されてきた方に蓄積を共有していただきながらウクライナ避難者支援にあたっていきたい。

<チアトル・ドーム 白羽さん>

9月2日-3日にウクライナの民話をもとにしたミュージカルを行う。避難民アーティストやウクライナのダンサーの方と一緒に内容を作っており、世界中の方々にウクライナの素敵な文化を紹介して楽しく過ごしていただきたい。イベント詳細は以下 URL参照  
<https://teatpdom.com/next-show/>

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## ◎ネットワーク

- \* 物資の受け取り・お届け(野菜・食品・飲料・菓子類・雑貨類 等)
- \* 自治体訪問:2件   \* 個別訪問   \* 他イベントでの募金活動
- \* 家財調達&運搬   \* 同行支援   \* 相談事により、各種問い合わせ(病院・行政手続き等)

## ◎名古屋市委託事業

- \* 支援登録窓口問い合わせ対応   \* 個別訪問   \* 各種相談対応
- \* 市営住宅の内見と契約の同行   \* エアコン設置・ガス開栓の立ち合い
- \* 物資提供:保存食品・飲料・菓子類 等   \* 引っ越しに伴う運搬

・引っ越しに伴う家具家電の運搬が多数あり、登録フォームからのボランティア希望者に手伝っていただいた。JUCAの日本語教室時の託児ボランティアについてもお声がけしたところ、快く応じてくださる方が複数いらっしゃり助かっている。

・今週は通訳ボランティアに来て頂く機会が2回ほどあり、初めての方もいらっしゃるの、引き続き、ボランティアとして多くの方にご協力を頂きたい。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

●あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## 【個別相談】

- \* 障害者手帳を作りたい
- \* 市営住宅について入居に伴い家具家電の調達
- \* 子どもの日本語能力に不安がある
- \* 必要品の買い物に同行してほしい
- \* 現在の仕事を変わりたい 等
- \* 銀行の通帳を作りたい
- \* 提供品の運搬
- \* 希望職種の求人について
- \* 引っ越しに伴い、水道ガス電気の開栓閉栓

## 【課題】

- \* 市営住宅入居に伴う家具家電の調達
- \* 経済的不安→就労に繋がっていない
- \* 心的ケアの必要性
- \* 新規支援者登録の減少:登録総件数:企業・団体:61件(+1)、個人:172件(+1)  
マッチング総件数:企業・団体79件(+3)、個人:123件(+3)
- \* 医療サポートの必要性

・障害者手帳を作りたいという相談一つに、重度の確認やウクライナの制度の確認を通訳を通して行うことになるので、非常に時間がかかる。また、先程から話が出ているが、就労や転職をしたいなど、避難者だけの課題ではなく外国人の方に共通する課題が多くなってきていると感じる。一方、新規の寄付・ボランティア登録が非常に減少している。

・物資の提供に関して、多くご協力をいただき、ベッドや洗濯機などの提供があり、34世帯が新しく入居できた。

・登録ボランティアの中で、物資の陳列をもっと見やすくするためにという学生ならではの新しいアイデアを出してくださり助かった。運搬についても洗濯機の設置までしていただくなど、ボランティアの多大な協力がある。

・大交流会については、日頃のストレスを温泉で癒やしていただき、心身の悩みなどに対する相談会の時間も設けている。相談会では解決するというより、専門家と繋いで関係性を作るというきっかけとさせていただけるとありがたい。癒し、ストレスの解放が少しでもできればと思っている。現在名ほどの方が参加表明していただいている。まもなく本申込を開始する、その際にもアンケート等で悩みを聞くなどしたい。また、避難者の方のお楽しみ企画も準備しているのでリラックスできる機会としていただきたい。身元保証人の方の参加については、少し参加費をいただくことになると思うが、今参加人数を計算して詰めの作業をしているので、近日常に案内できるようにしたい。

# JUCA (NPO 法人 日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュミラさん、副理事長 榎原ナターリアさん

- ・8月は夏休みなので活動が少なくなると思っていたが、名古屋市に引っ越したいという希望者が多いので家具家電の調達、手続きなどで大変忙しい。
- ・8月6日はひまわり畑に避難者と行って交流会をした。
- ・8月14日はヘアサロンイベントを行い、12名が参加した。
- ・8月16日～19日にウクライナ大使館の支援金で子どもたちの夏休みキャンプ(3泊4日@伊勢)に連れて行って楽しかったようだ。子どもたち同士で勉強を教え合ったり、次回の機会を希望する声や、もっと長い期間やって欲しいなど意見があり、好評だった。
- ・明日はウクライナランチイベントの日だがテレビ報道などの影響もあり、予約で満席となっている。
- ・8月24日は日本語クラスの閉校式を行う。また、8月24日はウクライナの独立記念日なので18時～19時まで栄テレビ塔前でスタンディングデモをする。戦争から1年半になり、ニュースも少なくなったと感じる。戦争をしているということを忘れない。アピールするために続けたい。
- ・8月27日は名古屋市のウクライナデーへの参加があり、避難民がダンスや劇などを披露するため練習で忙しい。
- ・8月26日のどまんなかまつりへ参加がある。
- ・9月はイベントが多くて、避難者も忙しい。また現在、夏休みで一時帰国している避難民の方が9月になって日本に戻ってきた後、帰国してどう思ったか聞いてみたい。この会議でも報告していただいてもいいのではないかと思う。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

JUNTOS 吉村さん 山口さん

- ・JUNTOSは愛知県保見団地で活動する団体で、(自分たちが)大学 4年生で立ち上げてから3年目である。保見団地は住民の約6割が外国籍(うち、8割がブラジル国籍の方)
- ・団体の目的:外国にルーツを持つ方々に対して、言語を学ぶ場や言語を通して交流する場を提供し、住民の選択肢を広げることに。そのために、日本語や社会生活を学習する場や地域住民同士が交流し、相互理解を深める場を提供すること。
- ・土曜日教室:小学生を対象にした教室。ゴミ拾いにみんなで行ったり、文化紹介、宿題サポートなどを実施。子ども会のようなイメージで活動している。他に、スポーツフェスティバル(年1回)を実施、40名強が参加した。これは、子どもが種目を決めるなど、子ども主体の企画運営で進めてきた。
- ・活動して2年になるが、保見の老人会などとも連携できるようになってきた。一緒にゴミ拾いに行ったり、イベントにお誘い頂いている。
- ・ぐんぐんクラス:小学生から大人まで誰でも参加できる。勉強したい人が誰でも参加できる地域みんなの自習室。
- ・ほみのわクラス:大人のための初級・中級日本語クラス。今回、ウクライナの方の歓迎パーティを企画、参加したのはこのクラスの参加者の方である。他に、不定期に「介護の日本語」というクラスも実施している。
- ・活動で大事にしていることは「一緒に」(JUNTOSとはポルトガル語で「一緒に」の意味)自分自身も保見団地に住んでいるが住民の方と一緒に課題があれば解決して、楽しいことは一緒に楽しむということを大切にしている。



# 自治体、支援団体からの報告と質疑

JUNTOS 吉村さん 山口さん

## <ウクライナ避難者のウエルカムパーティ>

- ・7月15日(土)@県営保見集会所。参加者：48名
- ・参加者の所属とニックネームを一覧表にしてウクライナ語に訳して配布した(誰が誰なのか避難者の方にも一致できるようにするため。)
- ・住民の方がブラジル料理など、食べきれないほどたくさんの料理を持ってきてくださった。会場内には誰でも参加できる地域農園やイベントの情報を掲示した。
- ・参加した避難者の声：日本語を勉強したい。子どもが好きなので、英語を教えたい。ウクライナでの生活のこと。ウクライナ語での挨拶を教え合ったりなど、参加者同士で様々な交流が生まれた。また、ほみのわクラスの生徒さんと避難者の方が勤務先の工場で会ったことがあるという話も出て、今後につながる機会となった。
- ・開催後の避難者の様子：SNSで繋がった。日本語教室に2名毎週参加してくれるようになった(時間より早く参加し、教室の進度に合わせてひらがなを学ぶなど努力していらっやる)。保見夏祭りに浴衣を着て参加していた(地域に馴染んで行動範囲が広がってきているようだ)
- ・住民の方とウクライナ避難者の方は車を持っていないので、買い物など手伝えるといいねという話をしている。
- ・ウクライナの方の共有スペースとして使っていただける場所もある。ウクライナ料理教室なども企画できたらと考えている。
- ・今後も、避難者の方と地域住民の方が交流できるようにイベントなど行っていけたらと考えている。



# ウクライナ避難民の方々とのこれまでの歩み

一般社団法人全国心理業連合会 事務局長 高溝さん

- ・昨年、日本財団の研修会で RSY のみなさんと出会った。名古屋で素晴らしい活動をしていることを学ばせてもらった。そのような中、7月に名古屋でイベントを行う際に協力をお願いした。
- ・当団体は、非営利の心理カウンセラー業界団体。日本で有事が起こった際には、心の痛みを抱える人が多くいる。心の痛みを抱えている方がいらっしゃれば、心理カウンセラーがボランティアで何でもやりますというスタンスで活動している。
- ・東日本大震災の際には、カウンセラーがボランティアで現地に行き、相談にのり必要とされる人のサポートをしてきた。4月1日に現地入りをして状況を把握、避難所を廻り必要なケアは何かを見定めながらのべ 1000人以上、250箇所以上の避難所を訪問して、活動にあたってきた。コロナ発生直後のダイヤモンド・プリンセス号乗船者への心のケア。相談できる窓口がなかったため、LINEでできる無料の「心のケア相談」を厚労省から受託してケアにあたってきた。
- ・ロシアによるウクライナ侵攻後、政府が避難民の受け入れを表明し、心のケアが必要な方がたくさん来日されることを予測した。様々な準備を経て、ウクライナ心のケア交流センターを2022年5月に設立。立ち上げ当初は、難民支援の専門家ではなく、ウクライナのことも知らなかったため、ウクライナ在留経験がある大学教授からウクライナについて学び、理解を深め、在日ウクライナの方達の協力が必要と認識した。そして、イリーナさんをスタッフとしてお招きして一緒に活動を開始した。
- ・最初の交流会を5月2日に行ったが、参加者は1家族3名だった。信頼されなければ相談はしてもらえない。私たちもウクライナの方達を知っていく必要がある。どうしたら安心して来てもらえるかと考えた。最初の交流会でお昼時だったので、たまたま料理を出したところ空気が和んだことを体感した。食事を通じた交流はウクライナの方にとっては安心ができることがわかり、その後は食事交流会を行っている。単に食事会ではなく、七夕、夏祭り、クリスマス、成人式、本来であれば家族が隣にいておめでとうとなるが、今はそれができないため、日本でお祝いをさせていただいた。

# ウクライナ避難民の方々とのこれまでの歩み

一般社団法人全国心理業連合会 事務局長 高溝さん

- ・設立1ヶ月で動物園で交流するイベントを行ったところ、約 100名の方達が参加。なぜこんなにたくさん集まったのかと驚いた。ウクライナから来た方達は母と子どもが多い。休みの日に子どもをどこに連れて行ったらいいかわからない方が多いのではないかと、また、ウクライナでは子どもを大切にすることがあることを大学教授から学んだ。さらに、森へのハイキングやピクニックを日常的に行っていると知り、動物園がよいのではないかと企画をした。ウクライナの人たちを知った上で、どのようなものが好まれるかということも反映して行ってきた。乗馬や水族館、ひまわり畑など自然の中でのアクティビティはウクライナの方に大変楽しんでもらえる。
- ・昨年7月に開催したサッカー観戦は、10代の若者には好評だった。子どもと母親以外の人たちには、どのようなイベントがいいか、いろいろな人に来てもらえるようなイベントを考えて行っている。ティーンエイジャーには、音楽も効果的。LUNA SEAのSUGIZOさんが応援してくださり、毎回コンサートに呼んでくださっているが、名古屋でのコンサートが開催される際に RSYに協力を依頼した。若者には好評だった。
- ・昨年秋ごろから就労支援、日本語教育を行っている。「ジョブフェスタ」を行い、企業の方に来ていただき、仕事の紹介、メタバースや NFTアートなど最新技術をウクライナの人たちに教える、新しい手法を学ぶ場を開催した。
- ・関西や福岡から声がかかり出張イベントを実施。大阪スカイビルでイベントを行った。ウクライナのトップアーティストの招聘サポートもした。東京だけでなく、大阪や福岡、沖縄、山梨にも行ってくださり、全国の避難民を勇気づけて頂いた。
- ・1年半で約90回の催しを行った。センターは登録制となっていて、1500人ほどの登録がある。信頼される団体になってきていると感じている。

# ウクライナ避難民の方々とのこれまでの歩み

一般社団法人全国心理業連合会 事務局長 高溝さん

・昨冬には「ウクライナに『あたたかい』を送ろうプロジェクト」を実施。ウクライナでは電力施設が攻撃され停電が続いたというニュースが記憶にあると思う。キーウへの爆撃があった時にイベントの参加が半数くらいになったという出来事があり、ウクライナの人たちの心理状況は本国の様子によって大きく変わること気がついた。以降、本国のニュースもしっかり把握しながら、サポートを行うようになった。避難者は、本国は寒く停電も続く中、自分だけ安心できる日本にいていいのかという罪悪感を感じている。避難者が本国からのリクエストを集め日本のサポーターが物資を集め、自費でウクライナに送るといった活動。物を送るだけに見えるかもしれないが、本国に届いた写真を送ってもらい、日本の支援者も役に立っていることを実感し、避難者も本国のために何かができたと罪悪感が減ることに繋がる。

・「ウクライナ心のケアシンポジウム」を月に開催。左下は5歳の女の子が描いた絵。タイトルは「爆弾の雨」センターに通い始めて数ヶ月後には絵に変化があり、動物が描かれている。右下はウクライナとロシアと他の国という10代の女性の絵。ウクライナはロシアに囲まれて血が流れてるが、他の国は関心を持っていない、ということが表現されている。箱庭療法では、塹壕が表現されていた。ウクライナの方達は笑顔で慎み深く見えるが、どんな方も痛みを抱えているということをしっかり心に留めながら活動する必要がある。

5歳女子



10代女性



# ウクライナ避難民の方々とのこれまでの歩み

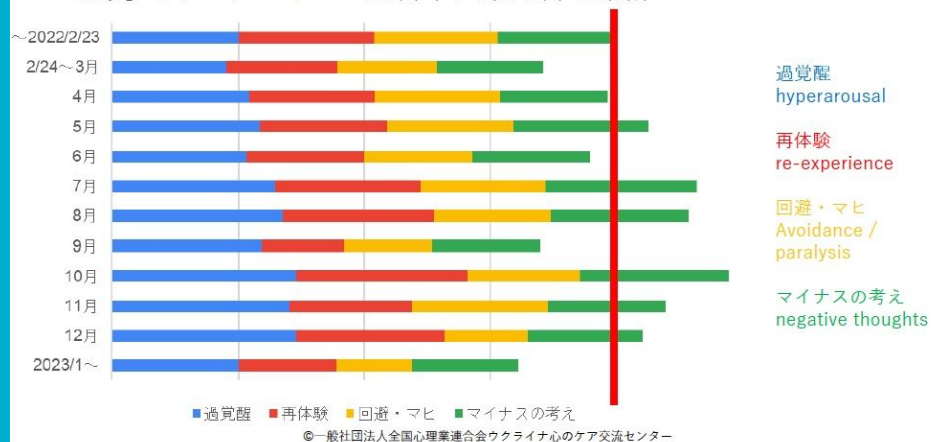
一般社団法人全国心理業連合会 事務局長 高溝さん

## ・メンタルヘルスのアンケートについて

(実施期間: 2023.2/11~2/17、方法: インターネット、有効回答数: 335、右表)

心身のストレスの状態を日本に来た日で集計した。縦の赤のラインがメンタル的に必要なサポートをしなければならないという基準。どの月もその基準を超えている人がかなり多い。この結果は、夜も眠れない、毎日ピリピリしている、考えられない数値であるという専門家の評価。この専門家は東日本大震災の時にもアンケート分析を行った先生なので、その結果から見ても大変な状況であるとの評価であった。

## 心身のストレス ※日本に来た日で集計



# ウクライナ避難民の方々とのこれまでの歩み

一般社団法人全国心理業連合会 事務局長 高溝さん

## <今後について>

①10代の子どもたちの教育支援:日本は中学校まで義務教育なので学校には通うことができる。一方、寄せられる相談の中には、中学校には通っているが日本語がわからないので座っているだけ。

さらに、高校は義務教育ではないので子どもたちはどうしたらいいのか。受験や大学進学のためには高校を修了しなければならないという相談がある。子どもでは、通信制高校であれば学校への登校日数も少ないので、一旦入学し、日本語学習を集中して行い、日本語力向上後に高校学習に取り組むという計画を立てている。

②日本語教育:日本語がうまくできないと、日本社会で暮らしていくことは難しいので、日本語教育に力を入れたい。

③就労支援:避難生活が長くなり、日本での生活に経済的な不安を抱えている人も多いので、就労支援が必要と感じている。

## <愛知県の皆様へ>

私達は東京渋谷での活動。イベントの機会も多く、情報も多い、活気もある。一方、関東以外の地域ではウクライナ語で話せる機会やイベントも少ない。自治体や支援団体は、大変手厚い支援を行っているが、孤独感に関東に比べるとそれ以外の地域の人たちのほうがかなり高いと感じた。大阪のような大都市であっても、寂しさを感じていることを実感した。他の地域では、支援者が「ウクライナの避難者は笑っていいんですね」と言う。本当は、母語で笑ったり泣いたりする、それが人間らしい生活。孤独感を感じている人がたくさんいる。地域に暮らすウクライナの人たちへのサポートはとても価値があること。

# ブレイクアウトルーム共有

●各ルームでの話し合い内容は概ね以下の通り。

## <JUNTOSへの質疑応答>

Q戦争当事者であるウクライナ避難者への対応となるが、保見団地の外国人の方はどのように接しているか？

→保見団地のパーティで通訳を介して初めて会話するきっかけができた。避難者という目ではなく人と人という当たり前の接し方がスムーズに始まったようだ。「外国から日本に来た」という仲間意識もあり、あまり避難者ということ意識せず話すことができたのではないかということであった。

Q活動の中での苦労は？

→よそ者感が最初はあったが、自分たちも困った時に地域の方のサポートを受けたりして、「一緒に」ということを意識することによって変わっていった。

## <全心連 高溝さんへの質疑応答>

Q支援者側への働きかけについて、支援者の新規の参画をどうしているか？

→マスコミに取り上げてもらうこと。日本財団のつながりで青年会議所、ロータリークラブへの働きかけをしている。ウクライナの方に一度会うことでその後支援につながることもあるので、交流イベントを多く開催している。

Q避難者への働きかけについて、イベントの企画をどのようにしているか、就労のモチベーションをどのように上げるか？

→開催だけではなくアンケートを取って、次に繋げるようにしている。目の前の仕事は本国でのキャリアに比べると単純労働に近かったりすることがあると思うが、将来の自分のキャリアアップにつなげるにはどうしたらよいかという意識付けをしている。

・(コメントとして)どちらも、相手方とのキャッチボールをしているところが多彩な活動に繋がっているのではと感じた。

# ブレイクアウトルーム共有

Q言語の問題は？

→やり取りのほとんどは在日ウクライナ人スタッフとの通訳によるもの。他はフォームやメールで書いてもらったものをグーグル翻訳やポケットクを駆使して会話している。

<他の意見交換>

・一般の方の関心の薄れをどう支援に繋げていけるかという点についての意見交換。当初は手厚かった政府や日本財団の支援が少なくなってきたので、関心も薄れてきていると実感。国籍に関わらず、みんなで支援をしていくことが改めて大切だということへの関心の喚起をしたいという意見がでた。



# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。